

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100545		
法人名	有限会社 ライフプランニング		
事業所名	グループホーム ひだまりの丘		
所在地	北海道釧路市白樺台2丁目8番20号		
自己評価作成日	平成27年10月17日	評価結果市町村受理日	平成27年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100545-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 10 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは受診時に、忙しいご家族に代わって付添いを多く行っています。
又、食事の際にはその時期の旬の食材を取り入れて、楽しめるように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは開設11年目になり、近隣住宅もほぼ同じ時期に立ち並び、新しい住宅地の中に立地しています。平屋2ユニットで中央の玄関を挟み左右に分かれ、建物全体が天窓付きで柔らかい日差しが入り、明るく、ゆったりとした共用空間となっています。管理者と職員はホーム内の清潔、安全、安心に配慮し、利用者が家庭的な雰囲気の中でおだやかに安心して生活できるよう支援しています。管理者が看護師であるため家族も職員も日常の健康管理や指導を安心して受け信頼関係に繋がっています。管理者、職員相互のコミュニケーションも良好で、勤続年数も長く、安定した職場となっており、利用者への支援体制に繋がっています。運営推進会議と避難訓練に家族や地域住民の参加が増え、協力体制が作られてきました。職員は利用者が日々、おだやかに安心して生活できるように介護、介助をして、不安や戸惑いを感じさせないサポートをすることに気配り・配りをしています。利用者が家族や地域住民、職員に見守られながら、自分らしく暮らしているホームです。

Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します							
項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が	有限会社			
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを念頭に入れ、毎日理念を提示・唱和して職員で共有し、実践につなげているが、忙しくなると強い口調になる・言動が崩れることがあるので注意する。	理念は各ユニットの居間と事務所に掲示しており、職員は、毎朝のミーティング時に唱和して意識を持ち介護、介助につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の病院での受診、スーパーや床屋の利用など日常的な面での交流の他、避難訓練などの行事でも地域とつながりをもつようにしている。	事業所の地域には町内会が無いので、隣の町内会に加入し交流を図っています。ホームの夏祭りイベントや避難訓練に町内会役員が参加し協力を得ています。地域で開催する盆踊りや花火大会を見に行ったり、中学校からの職場体験学習を受け入れるなど交流を図っています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一回の広報や、運営推進会議・研修・認知症サポーター養成講座・夏祭りなどで発信をしている。家族の方には支援方法などの説明をしている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ご家族や地域の方達に参加いただいて意見を伺う・ヒヤリ、ハットや事故報告を行うなどしてサービス向上に活かしている。	2ヵ月に1度定期的開催し、家族、町内会会長、元民生委員、地域包括支援センター職員、ボランティアの人が参加し、テーマに沿って状況報告、行事報告、活動報告し、参加者からの意見、アドバイスを得て、記録し、職員に共有してサービスの向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃からとは言えないが、必要に応じて都度生活福祉課に連絡するなどして、事業所の事情や取り組みを積極的に伝え、協力関係を築いている。	市担当窓口へ提出書類を持参した時に事業所の取り組みを伝え、アドバイスをを受けたり、必要に応じ電話で相談し指導を受け、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議を行い、全ての職員が共通の認識を持ち身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のスタッフ会議で身体拘束防止について話し合い、全職員は理解し、日常的に認識を持って身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は多くはないが、会議で全職員の意識を統一し、常に虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少なくあまり活用できていない面はあるが、法務局の出前講座やパンフレットなどで理解をはかっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度十分な説明を行い利用者や家族に納得いただいた上で同意書にサインをいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な会議や来所時に気軽に話ができる機会を設け、意見や要望を可能な限り運営に反映させている。また、アイデアボックスを設置し家族や第三者の意見をうかがっている。	玄関の入り口に『苦情、ご意見、アイデアボックス』を設置していますが、意見等が少なく、家族が訪れた時や電話での会話時に聞きだした事を「家族との対話ノート」や「意見ノート」に書きとめて、職員会議で話し合い、全職員が周知して運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に報告・連絡をしたり、毎月の会議で意見や提案をしたりしているが、あまりしない職員もいる。また、それらが十分には反映されていないと感じる面もある。	管理者と職員のコミュニケーションはとても良好で日常的に個人の意見や提案を聞き入れ解決に繋げています。毎月の職員会議の時にも意見交換をして全職員から聞き出して、運営に反映するように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意見を常に聞き、労わり、特に夜勤後はよく休むよう声掛けしている。職員個々の実績や努力を把握し向上心をもって働けるような環境が整っている。毎日の勤務表で就業環境を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会を確保し働きながらトレーニングしていくことを進め、実務者のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部の研修で交流しているが、その機会があまり作られていないと感じる者もいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	都度本人の意見や要望に耳を傾け関係作りに努めている。初期は特に慣れるまで本人と多く話して困っていることや不安を聞き出し、少しでも情報を多く持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の意見や要望に耳を傾けケアプランに反映し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応ができています。初期にはサービスを固定せず、様々なことに目を向けている。優先順位をつけ、出来る事と出来ない事を見極めサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他者の面倒や軽家事(出来る範囲での手伝い、食器拭き、洗濯物たたみ)など利用者それぞれの役割を大切にしながら関係を築いている。楽しく笑って過ごせるようコミュニケーションをとり、入居者同士の関係は良好。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、その家族との絆を大切に、情報を共有して共に本人を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や病院を利用したり、友人や知人が訪れた際交流していただいたり、本人の意見を尊重して馴染みの関係が途切れぬよう支援しているが人によっては難しい場合もあり、あまり努められていないと感じる者もいる。	職員が馴染みの美容室、理容室には付き添って行き、会話を楽しんだり、友人、知人が訪れ楽しく過ごしたり、また、家族と墓参りに行ったり、年末には実家で過ごすなど、知人、家族との交流が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りのもとトラブルにならぬ様に支援し、気の合う利用者同士で、本人達の出来るゲームをしたり、会話をしたり、手を繋いで散歩をしたり、支え合う関係を大切にしているが、中には他人を受け入れられない利用者も。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	それまでの関係性を大切に、家族の相談を受け現場に応じたフォローや支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	欲しい物の買出しや美容室など、一人ひとりの希望、意向の把握に努め、安心・安全に暮らせるよう見守りの元過ごしている。	入居時に本人と家族から希望や意向を聞き、記録して把握しています。スタッフが日常の声掛けの中で、利用者から聞いた事や、思いを感じ取り、支援経過帳に記入して、全職員が把握するよう努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人から確認して介護記録に記入し、職員一同他のサービス利用の経過を把握している。情報をもとに声掛けをするが、趣味が変わっている場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日それぞれの希望を聞き、心身状態等の記録を行いスタッフ間で共有して現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度本人、またその家族、関係者と話し合い意見などを反映し現状に見合った介護計画を作成して実践に繋げている。	本人、家族と話し合い、スタッフのアセスメントと日常の記録や状況を基に、職員と管理者が意見やアイデアを出し合い、3ヵ月毎に介護計画の見直しを行い、同意書を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個々に記録し職員間で情報を共有しながらサービスケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリを個人に合わせ段階的に行うなど、その時々ニーズに出来るだけ対応するようにしているが、柔軟に対応しきれていないと感じる部分もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共のサービスを利用したり、近隣に買い物に入ったり、行事に参加したり、一人ひとりが安全で豊かに暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフか家族付き添いのもと定期的受診や往診でかかりつけ医との関係を築き適切な医療を受けられるよう支援している	入所前からのかかりつけ医は継続して通院しています。協力医の往診は、定期的に受診し、ホームとの関係を構築しながら、医療の支援をしています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で状態の把握に努め、本人に代わって情報を伝え相談し、個々の利用者が適切な診察や看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談を密に行い、スムーズな退院を支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	医師を交え、終末期に向け十分に本人やその家族と話し合いをし方針を共有しているが、課題はある。	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームの方針、指針を入居時に本人、家族と話し合い説明して、同意書を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出前講座やAEDの研修などを受けているしマニュアルもあるが、定期的には行っていない。急変時、のどつまりへの対応があまり身についていないと感じる者もいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練に全職員で参加し避難方法を身につけている。津波の来ない高台にあるため、施設駐車場に避難する。	防災訓練は年2回定期的に行い、うち1回は消防署職員参加で指導を受けています。町内会からも参加があり協力体制を築いています。職員はAEDの講習を受け、実践できるように心がけています。地震時にはホームを町内会の方々の避難場所に提供することを了解しています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを確保している。一人ひとりに対して優しい声がけを日々心がけているが、言葉選びにいま少しの改善を要する。	利用者が楽しく、生き活きと過ごせるようにやさしく、丁寧な言葉かけを日々心がけています。一人ひとりのプライバシーを考慮し、おだやかに安心して生活できるように接遇に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすく話したり二者択一にしたりして本人の希望をなるべく聞き入れ自分で決められるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員側の都合を優先しがちであるが、生活リズムを観察しどうしたいかを考え、本人のペースは必ず大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣スーパーで服を買ったり、散髪に行ったり、衣服の乱れを直したり、利用者に合わせた身だしなみやおしゃれを出来る範囲で支援している。朝、自分で髪を整えたり服を選んだり出来る方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗拭きなどの軽家事を必ず一緒に行っている。床掃除等を積極的に行ってくれる入居者もいる。	職員は利用者楽しく声掛けしたり、利用者は芋の皮むきを手伝ったり、なごやかに楽しい雰囲気の中で食事をしています。誕生会、クリスマス会、季節の食事、行事食や外食も楽しんでいます。	カロリーや食材のバランスに配慮していますが、計画的な食事メニューがないため、定期的な献立を考えて、メニューを掲示したり、家族にお知らせすることで、利用者や家族の安心、信頼に繋げる事を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量や摂食量を観察記録し、状態の把握に努めている。又塩分は少な目に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全員の能力に応じた口腔清掃を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立した排泄が行える様に支援している。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげなく誘導し、トイレでの自立排泄を支援しています。入居時はオムツだった利用者が紙パンツを使用し、トイレで排泄ができるようになった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を積極的に行ってもらい、便秘予防を行っている。下剤の使用も状況に応じて使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴時間帯はある程度きまっており、職員の都合に合わせてがちだが、入浴の順番等は希望を取り入れるように勤めている。	利用者は週2～3回の入浴を楽しみにしています。気が進まない人には、時間を置いて再び言葉掛けしてタイミングを合わせています。その日によって、シャワー浴にしたり工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間帯は、それぞれの入居者が居室にて、思い思いの行動を行い、その後大半が安静就寝している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	回数やその他、飲み忘れ、誤薬を防止するために、職員が管理し適正になるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力に応じた趣味等を持っている入居者にはおこなってもらっている。 入居者が楽しんで行える様な行事や、日々の運動にも取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に家族の訪問や地域の来訪客等と接したり、又地域の買い物同伴を行ったりしながら、触れ合えるように支援している。	近隣のスーパーへの買い物を支援したり、車椅子の人もドライブで公園や、紅葉、花見を見に出かけています。ホームの夏祭りや地域の花火大会を全員参加します。時々、外食を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて、小額の金銭を渡し、適切に支払い等を行えているか、観察と支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話をしたいと希望してきた場合は叶えているがあまり頻繁ではない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう、トイレは日に2回清掃、エアコンなどを活用、テレビやラジオを常につける、生活感や季節感を取り入れるなど工夫をしている	共用空間は天井が吹きぬけで、天窓からやさしい日差しが入り、明るい居間、食堂です。居間にはゆったりとしたソファがあり、静かにラジオからの音が流れ、広い廊下の所々に一休みできる腰掛椅子も置いてあります。トイレ、洗面所も清潔で居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子など腰掛ける場所を各所に設置し気軽に話し合えるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて寝具を変えたり、本人の使い慣れたものを活かしたり、事故の無い範囲で筆筒やTVなどを置いたりして居心地良く過ごせるようにしている。	居室入り口には、各自の名前を貼り、室内に自分の書いた習字や、家族からのプレゼントを置き、整理、整頓がなされ、居心地良く過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはわかりやすく各自の名札をつけたり、トイレに目印をつけたり、洗面台に自分のタオルを置いたり、安全に配慮し手すりや椅子を設置したり、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		